

令和7年度 第1回みんなで支える森林づくり北アルプス地域会議

開催日時 令和7年7月31日（木）13:30～16:30

開催場所 大町合同庁舎 301・302号会議室、大町市美麻地区（現地視察）

出席委員 小山委員、鈴木委員、長沼委員、藤原委員、丸山委員、渡辺委員

事務局 柳原北アルプス地域振興局長、坪井林務課長、三村企画幹兼林務係長、
山田課長補佐兼普及林産係長、清水主任森林経営専門技術員、守谷担当係長、
日名子技師

1、室内会議

（1）あいさつ：北アルプス地域振興局 柳原局長

本日は、今年度第1回目の「みんなで支える森林づくり北アルプス地域会議」を開催しましたところ、ご多用中の中、ご出席いただきありがとうございます。

また、ご参集の委員の皆様には、常日頃から様々なお立場で北アルプス地域の振興にご尽力を賜り、厚く御礼申し上げます。

森林税につきましては、5年を一括りにして4期目に入っています。本年度は、その5年間の3年目となっています。森林税の導入当初は、間伐の推進という形で一人当たり500円をいただき、全県では約7億円を財源として取組を推進してきました。15年が経過し、森林は生長しているが、材としての活用が進んでいないということが課題となっていたことから、第4期の大きな目標として、主伐再造林を進める取組を推進しています。また、本日、大町市ふたえ里山整備協議会の取組について現地を視察していただきますが、里山に人の足が向くように整備をしていく「開かれた里山整備」という形で、少し今までと違う方向での取組も進めています。

全ての取組が順調に推進しているわけではありませんが、この地域の事情や取組内容をご説明させていただき、ご意見をいただき、今年度中に反映できるものは反映してまいります。また、来年度に向けて各地域振興局で財源調整もありますが、いただいたご意見を反映してこの地域で必要な森林整備、木材活用、林業活動などが更に推進出来ればと思っております。

本日は、現地を含めて長時間になりますが、非常に暑いので水分を取りながらしっかり現地調査もお願いしたいと思います。

（2）会議

- | | |
|----------------------------------|-----|
| 1) 令和6年度北アルプス管内森林づくり県民税活用事業の実績 | 資料1 |
| 2) 令和7年度長野県森林づくり県民税 事業の内容及び目標 | 資料2 |
| 3) 令和7年度北アルプス管内森林づくり県民税活用事業の実施計画 | 資料3 |

（渡辺委員）

資料3の「広く県民が利用する施設等の木造・木質化」「やまほいくフィールド整備や学校林の整備等」の要望がないがこれは、「どんな内容か知らされていない」「どういう形で知ったらいいのか学校側が理解していない」「メニューの中身が使いづらい」といったことがあるのではないかと。

（林務課 山田補佐）

木工体験の推進支援など木育については、講師として出前講座のような形で行えるメニューはあります。

学校の行事が多い中で、木育を行事として入り込むことができるのかは分かりません。

(渡辺委員)

どこが主催になるかということですね。

(鈴木委員)

環境学習の中で、県の信州環境カレッジを利用している。これについては、学校側から申請しなければならないが、「このHPのこの事業に申し込んで」とお願いしないと先生からの申し込みはされない。

木育を推進するには、学校側に申し込みを依頼しないと進まないと思う。

(柳原局長)

第4期の森林税が始まる時に、県庁の森林政策課に勤務しており、この森林税にも携わっていたが、各地域の会議に出席した時に、全く同じ意見が出て、なぜ木育が広まらないんだと委員の皆様からご意見をいただいた。その時の話では、「学校行事は1年サイクルでかなり前から行事が決まっているので、年度途中でPR・周知プレスをする、県のやり方はそぐわない、もう少し手前から、市町村や教育委員会、学校の先生にこういう木育の授業があってどこかのカリキュラムで実施を検討できます。」ということを行わないと、あまり広まらないという話がありました。

全県的に見ると上手く使えている地域もあるので、この地域での木造化・木質化・木工化が事業展開して広がっていくために、情報を得ながら取り組みを検討してまいります。

(林務課 山田補佐)

木質化に関していうと、県産材というくくりであれば事業対象となる範囲が広がると思うが、認証材のみが対象となっており、この管内では認証材は無く、しかも補助対象が材料費にしか出ないとされている。これが、広まらない要因であると県の県産材利用推進室に話をしたが、県の認証製品を使う条件を緩和する予定はないと回答がありました。

(鈴木委員)

木質化について、建築士会との連携はあるのか。

(林務課 山田補佐)

この事業については、建築士会へも情報提供しています。

(鈴木委員)

でも、回答はないということか。

(林務課 山田係長)

今のところ、回答はありません。

(丸山委員)

木育のは、申請してからどのくらいで交付されるのか。

例えば、夏休みに実施したくて、その1か月前に申請をして、夏休みの講師派遣に間に合う感じで授業が展開されるのか。

(林務課 山田補佐)

補助事業の流れがあり、前年度から計画要望しなければ県庁で予算化が出来ないので、難しいと思います。

(丸山委員)

現実にも育を行う場合は、当年度に計画を立てて、講師を選定し実施するという流れなので、当年度に急遽決定した者に対して対応できると使いやすいと思う。

(鈴木委員)

申請主体は、学校でなければならないのか。

(林務課 守谷係長)

主体は、公立の学校は市町村の教育委員会になります。

教育委員会は、学校で行う授業を全て把握する立場にあり、予算は教育委員会が組まなければ公立の学校は出来ない仕組みとなっています。

私立は学校主体で実施できます。

支援団体という位置づけも事業主体になれるので、信州フォレストワーク等は、そういう要件の中で実施されています。

(渡辺委員)

木工体験は人件費が必要であり、現在はボランティアが多い。やはりいろいろな補助があることを学校に周知しながら、信州フォレストワークのような体制が必要と感じる。

(藤原委員)

小谷村伊折地区で大学生を対象とした伐採体験などを行う場合、林業関係者の協力が必要だが、そのような活動も補助対象になるのか。

また、ビオトープで木道を敷いている。今までは小谷村に申請して補助を受けていたが、このような活動も補助対象となるのか。

(柳原局長)

林務の補助だけではなく、農政など他にもいろいろな補助がありますので、何かの折にご相談いただきたい。

(渡辺委員)

資料2の令和7年度森林づくり県民税の予算の柱は、主伐再造林ということで進んでいるが、残念ながら、再造林推進シカ捕獲サポート事業については予算が減っている。

主伐再造林を進めるうえで、獣害は深刻な問題と受け止めている。確実にシカは増えているのにこの予算が減っているのは、おかしいと感じる。

今の課題を解決しながら回していける予算を組んでいかなければいけないと思う。

(林務課 三村企画幹)

この事業は、昨年度は、根羽村でしか利用実績がない。事業主体が市町村というところが難しい部分であると感じています。

(丸山委員)

大町市では、事業実施するのは難しいと判断した。捕獲は猟友会が行い、見回りを行うのは、林業事業体。クマが錯誤捕獲された場合に見回り者がけがを負うリスクがあることから、市町村が責任をもって行うことができないというのが判断の理由。

(林務課 三村企画幹)

大町市と池田町へこの事業の実施について説明に伺った際、いまのような話が出てきて、なかなか進まないと感じました。全県的に進まない理由も恐らく同じ課題があると感じました。ただし、この森林税を活用した事業は進んでいませんが、シカの捕獲自体は積極的に推進しています。

(鈴木委員)

利用率が低いということは、広報がないのと、仕組が使いにくいことの両方の理由があると思う。見直しが必要ではないか。

(林務課 三村企画幹)

この事業については、要望率が低く、来年度は無くなる可能性もあります。

(鈴木委員)

課題がないわけではなく、使いにくいということなので、見極めをしていただいて、

改善していただきたい。

(渡辺委員)

ライフライン等保全のための支障木等の伐採事業を増やしてほしい。

道沿いの立木管理はみんな困っている、大きな課題である。

(丸山委員)

中部電力から、譲与税活用の要望もあったが、譲与税の対象は林業事業体が行わない手遅れの人工造林の整備とされており、譲与税は活用できない状況である。

～以上で、室内会議の意見交換は終了～



室内会議の状況



室内会議の状況

(2) 現地視察

1) 開かれた里山の整備・利用推進事業（大町市ふたえ里山整備協議会）資料 5

フランスの「地方自然公園制度」を参考に公園づくりを推進

美麻地区は少子高齢化、人口減少が進む一方、移住者が増えたが自治会加入率も低下し、地域作業の担い手が不足していることから、森林公園整備活動により里山利用を推進しながら、道路の草刈り、遊休農地の刈払いなどを行うなど、里山整備を通じ地域の活性化を図っている。

森林税を活用し里山整備活動、地域材活用、観光利用などを行いながら絆を深め、地域の活性化に繋がっている。

誰にでも活用いただきたいが、事故の危惧もあり、使用したいという方には、事前に連絡をいただき、注意事項を説明したうえで利用していただいている。今後、里山の整備面積を広げるとともに活動も積極的に推進したい。



ふたえ里山整備協議会

ボランティア活動により設置されたウッドデッキにて撮影

2) 大町市美麻地区のシカ捕獲の取組 資料 4

シカの低密度地域でセンサーカメラを使った効率的捕獲

R 6 にセンサーカメラを設置し、シカの出没場所を把握し捕獲経験の少ない林業事業体職員（猟友会員）がわな設置・見回りを実施し捕獲した状況を視察。

カメラ 12 台、くくりワナ 20 基、設置日数 30 日（R6. 10. 3～11. 3）

捕獲効率・・・1 日当たりワナ 1 基で何頭捕獲されたか

【3 頭／（20 基×30 日）=0. 005（八ヶ岳の狩猟と同程度）】

捕獲場所は、R6. 4. 25 の造林地（面積 0. 1 ha）であり、新たな、シカ忌避剤「カジラン」の散布状況も併せて視察した。カジランは天然成分の硫黄が有効成分で環境負荷が小さく、水源地でも使用回数に制限なく使用可能。また、塗布剤もあり水がない場所やクマ剥にも効果あり。

くくりワナの見回りでは、クマの錯誤捕獲の危険があり、常に危険を感じている。

センサーカメラの状況を携帯電話から見れる機能があるので、そのような補助をしていただくとありがたい。

3) NPO法人美麻ジビエ振興会の取組 資料 6

美麻ジビエ工房の取組状況

北アルプス管内には 3 箇所の野生獣肉加工施設があり、美麻ジビエ工房は平成 24 年度から活動している。主にシカ肉を販売しており、くくりワナで捕獲した個体を現場で放血し、加工施設で皮剥ぎ・内臓処理、熟成させ精肉作業を行い販売

施設規模、解体作業員の関係から年間 200 個体位が限界。被害対策もあるが、有効利用という SDGs の観点からボランティア活動の一環と考えており地域のワークショップや学校教育への協力もしている。

仕留めたシカを山中に埋めても 1 メートル程度の深さでは、クマが掘り返してクマを食べることがあり、クマの肉食化が進まないためにも、ジビエにもっと活用いただきたい。そのための支援を行政にお願いしたい。